
機動戦士ガンダム外伝～語られ無かった物語～

MATYURA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動戦士ガンダム外伝「語られ無かった物語」

【Nコード】

N3530Y

【作者名】

MATYURA

【あらすじ】

機動戦士ガンダム、1年戦争では語られなかった物語

ブローグ

時代は西暦から宇宙世紀にかわり80年がたとうとしていた
しかし宇宙世紀0079年1月スペースノイドのアースノイドに対
する不満はジオン公国と地球連邦の戦争という形で表現された

開戦から8ヶ月、ジオン軍は地球の3分2の地域を占領したが地球
連邦の激しい抵抗にあい、戦争はこんなやく状況に入った

そしてついにMSの量産に成功した連邦軍は11月7日ジオン軍オ
デッサ鉱山資源採掘基地に対する一大反攻作戦「ヨーロッパ反攻作
戦」を発動する

後に言うオデッサの戦いである

戦いは今、最終段階に入ろうとしていた……

1話 鉄の墓標

宇宙世紀0079年11月8日 早朝

オデッサ南東にあるジオン軍シンフェローポリ基地の滑走路を1人の男が歩いていた、装飾のついた艦長帽を風に飛ばされないように押さえていることから彼が艦長だということが分かる

彼の名前はルール・シユタール

そして彼の愛機は巨大なえんたいから出てくる所だった

全長150m、全高70m、翼の長さが150mもある巨人機ガウ攻撃空母である

5個のえんたいからそれぞれ5機のガウが朝日に染まる滑走路を砂煙を上げながら走る姿は壮観だった

ルール中佐がガウに搭乗すると航法士の斎藤少尉が出迎えてくれたエレベータでコックピットまで行くと

「全艦離陸準備完了しました」
操縦士のアリス中尉が艦長に報告をする

「ありがとうアリス中尉、マイケル、通信をこちらにつないでくれ」
「もうつないであります」

「ふっ、さすがだな」

「いえいえ、これも通信士の仕事のうちです」

「そうか、ありがとうマイケル曹長。…ところで誰か副長を知らんかね？」

……..
しばらくの沈黙の後、斎藤少尉が

「オーエン大尉なら、また腹の具合が悪いようで…」

ルール中佐はため息をつく

「では、しかたがない、後で伝えることにしよう」

彼はヘッドホンを頭につけると今回の作戦の説明を始めた

「今回の作戦はオデッサ総司令のマ・クベ大佐からの命令である。

主要目標はシノップ基地に追い詰められた友軍を回収しオデッサ基地に戻ることである。確認のために言っておくがルートは黒海を横断してシノップまで行ける最短ルートを通る。何か質問はある艦長はいるか？」

「こちら4番艦、中隊長殿に質問があります」

ルール中佐は苦笑いをしながら

「殿はいらんど、後中佐でいい。なんだ？」

「わかりました。では中佐質問です。今から向かうシノップ基地がすでに陥落していた場合でもオデッサに戻るのですか？」

それは誰もが考えていたことだった

黒海を渡ってシノップまで行って帰るだけでも充分危険なのに、そのシノップが占領されていればたとえ途中でそれが分かって引き返

したとしても敵戦闘機の追撃からは逃れられないだろう。

それなら引き返すのではなくシノップを迂回して別の基地に向かった方が安全だ

それに今いるシンフェローポリ基地だっていつ敵の空襲や砲撃にさらされるか分からないような状況なのだからオデッサはもっとヒドイに違うない

ルール中佐も深刻そうなおももちになった

「…あまり考えたくはないが、その時はオデッサに帰還せよとの命令だ」

「わかりました。中佐ありがとうございます」

「では、我が機を先頭に順次離陸せよ、基地上空で編成をくんでから出撃する」

「各員準備はいいか？」中佐の問いに

「通信、良好です」

「舵、異常ありません」

「風向き、南南西、風力3、離陸に影響なし」

「レーダー良好」

「動力系異常なし」全員の答えが返ってくる

「よし、水噴開始、離陸せよ」

館長の命令と同時にガウの周囲が白いモヤに包まれる

ガウは自重が690tもあるので揚力を得るために8つの核熱ジェットと離着陸時に水を噴霧するのである

朝の静けさを破り滑走路に爆音が響き渡った

翼にある18基の推進用核熱ジェットエンジンが点火したのだ
5機のガウは爆音を上げながら滑走路を走り離陸していった

ジオン軍シンフェローポリ基地でガウ攻撃空母の離陸準備をしていたところ

ジオン軍シンopp基地は朝早いというのに多くの人が働き、基地防衛隊の旧ザクがサブマシンガンを持って警備にあたっていた

対空陣地は跡形もなく吹き飛び、厚さが2mもあるのかという鉄筋コンクリートの防御壁や格納庫に穴が開いている。これらを今日の戦闘が始まるまでにできるかぎり修復しなければならぬから大変だ
さらに修復作業と並行していつでも基地を放棄できるように機密文章の焼却と各所への爆弾設置が進んでいた

そんな中、基地の外側の防御壁にザク？が1機、静かにもたれかかっていた

そのザクは本来コックピットがあるべき場所に大穴が空いていた

パイロットは自分が「死ぬ」ということを理解する時間もなかっただろう。そんなザクを悲しそうな目で見ている男がいた
彼の名前はロス・ジェンツィー

この基地のMS部隊の隊長であり昨日の戦闘で司令室ごと吹き飛んでしまった基地司令と副司令の代わりに基地司令を務めている少し長めの黒い髪にメガネという風貌からとても軍人には見えないロス少佐はMSの空中戦術についての研究の第1人者だった

「ロス・ジェンツー基地司令、急ぎ仮司令部に来てください」
ロス少佐はしばらくの間、呼ばれているフルネームは自分の名前で今は自分が基地司令だということを忘れていた

彼は自分のフルネームを聞いたのは久しぶりだと思い苦笑いしながら、ここまで乗ってきた軍用エレキカーに乗り込み、基地中心部にある仮司令部へと向かった

彼の6人の部下のうち4人は連邦軍に奇襲をかけるためにもうすでにMSに乗り込み出撃していた

1人は基地の警備、もう1人は彼の後ろにいた

一輪の花がささげられた、大きな、大きな、鉄の墓標の中に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3530y/>

機動戦士ガンダム外伝～語られ無かった物語～

2011年11月12日13時21分発行